

慈雲

第 61 号

2021/12

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町3 7 5 番地

TEL (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

Shinshū Ōtani-ha

Jiunzan Zuirenji

Jiunkai



亦（また）、未来世（みらいせ）の一切の凡夫（ぼんぶ）の
浄業（じょうごう）を修せんと欲（おも）わん者をして、
西方極楽国土に生（しょう）ずることを得（え）しめん。

亦令未来世
一切凡夫
欲修浄業者
得生西方
極楽国土

【『観経』の言葉】

お釈迦さまは目の前にいる韋提希（いだいけ）夫人に向かって話しかけられるのですが、来た同時にそのお心は未来の一切の凡夫にも向けられていきます。凡夫とは何の取り柄もないただの人という意味ですが、他ならぬ私たちの事です。言うまでもなく仏教は万人のために説かれたものです。阿弥陀仏の四十八願の第十八願にも「十方衆生」と呼びかけられています。しかし、それは誰かの事だと思っていながらも、つたいないことです。經典の言葉を一般的な話として聞かずに私に向けられた事として聞くのです。そのことに気づけばただ漢字が並んでいるように見える經典の文字がダイレクトに私を指していることがわかるでしょう。これが仏教を聞くコツでもあるのです。

おふみ 御文を味わう

蓮如上人の御文の中の一つに疫癘（えきれい）の御文があります。新型コロナウイルスに振り回されて落ち着いた日常生活を忘れている私たちに、このような時こそ阿弥陀さまと一緒に歩むことを教えてくださっています。

当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり。しかれども、いまの時分にあたりて死去するときは、さもありぬべきようにみなひとおもえり。これまことに道理ぞかし。このゆえに、阿弥陀如来のおおせられけるようは、「末代の凡夫、罪業のわれらたらんもの、つみはいかほどふかくとも、われを一心にたのまん衆生をば、かならずすくうべし」とおおせられたり。かかる時ははいよいよ阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、極楽に往生すべしとおもいと

て、一向一心に弥陀をとうときことと、うたがうところつゆちりほどもつまじきことなり。かくのごとくころえのうえには、ねてもさめても、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏ともうすは、かようにやすくたすけます、御ありがたき、御うれしさを、もうす御礼のころなり。これをすなわち仏恩報謝の念仏ともうすなり。あなかしこ、あなかしこ。

延徳四年六月 日

【現代語訳】

近頃、たいへん多くの方が伝染病にかかって亡くなっています。これは決して、伝染病によって始めて死ぬのではなく、生まれた時から定まっている事なのです。それほど深く驚くことではありません。ですが今、そのようなことがあるときと伝染病によって亡くなったと思ってしまうでしょう。それは本当に無理ありません。そのように思ってしまう私たち凡夫に阿弥陀さまは「罪業がどれ程深くても阿弥陀仏を一心にたのみとする衆生は必ず救う」と仰せられたのです。阿弥陀仏を深くたのみ極楽往生は間違いないと心得て寝ても覚めても南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と申すのは

このように容易く救ってくださる有難さ嬉しきから申すお礼のころです。これを仏恩報謝の念仏と申します。かしこ
編集後記

○去る十一月十四日に報恩講に合わせて前住職の十七回忌法要を皆さまのおかげをもちまして無事勤めさせていただきました。有難うございます。法要の様子はユーチューブに残してあります。「慈雲山瑞蓮寺」で検索してご覧ください。今年一年間有難うございました。来年もよろしくお願い致します。

住職

○今年も残すところあと一月となりました。昨年引き続きコロナ禍の中、新しいお寺の在り方を模索する一年だったと思えます。特に力を入れたのがオンライン法要ですが、まだまだ改良の余地があると感じます。本堂での参詣とオンラインでの参詣を同時に行うことをハイブリッド配信と呼び、難易度が高い配信方式だそうです。状況次第ではありますが、来年春秋の彼岸会・報恩講もハイブリッド配信をできればと考えております。その際には、本堂参詣の方も配信を見られる方も互いにストレスなく見られるように努めたいと思っています。ご意見・ご要望ありましたら教えてください。ただければ幸いです。

若院